

「歴史の修正、改ざん、そして、フェイクニュース」 2022年03月22日

過去の歴史的事実を否定し、歪曲することを歴史の修正、改ざんと言っている。もちろん、否定、改ざんする当事者たちは、そのようには言わない。日本において、修正、改ざんと言われるケースは、従軍慰安婦はいなかった、あるいは、彼女らは商売として行っていた、また、南京大虐殺はなかった、あるいは、虐殺された人数を極めて少数とし些細な事件であるとの主張などに顕著に表れている。その人々は、先達を悪者にしてはならない、日本国の正当性を見失ってはならない、また、過去を悪く言うことは自虐的であると言う。

菅義偉内閣において昨年4月に、「従軍慰安婦」の文言は「従軍」と「慰安婦」の組み合わせから誤解を招く恐れがあるので「従軍」を削除し「慰安婦」とする、朝鮮半島からの労働者の移入は募集や斡旋などもあり「強制連行」でない場合もあるから「徴用」を用いることが適切であるとの、答弁書を閣議決定した。この決定も、婉曲な歴史の修正、改ざんを目論んだ政策である。政府への忖度で教科書の記述にも変化が出てくるだろう。

歴史の修正、改ざんは人権侵害を増幅し、深いニヒリズムを生み出す。中国は1989年に起こった天安門事件で、公式発表では死者319名だが、3千人とも報道され、英国公文書では1万人以上の民主化を求める若者たちが虐殺されたとする。国家による国民の虐殺を中国政府は正当化し、事件の真相を解明せず、犠牲者の追悼も許さない。この歴史の修正、改ざんの行き着く先は香港に如実に表れた。中国政府に異議を申し立てることを一切許さない。厳しい言論統制が引かれ、国民は徹底的に監視され、人権は全く無視されている。ジョージ・オーウェルの『一九八四年』は架空の世界とっていたが、現実展開されている。一辺倒な価値観が強要される世界で増幅されるニヒリズムは底なしに深い。

ドイツのヴァイツゼッカー元大統領は「荒れ野の40年」の演説で、ドイツの犯した罪を列挙し、「過去に目を閉ざす者は、現在にも盲目になる」と語った。過去に誠実に向き合ったドイツは信頼され、EU（欧州連合）内では、非戦を形成する大きな力になった。

過去の歴史を直視することは先達、故人を貶めることではない。人権侵害を生み出した歴史状況を把握し、過ちのない未来を展望することで、決して自虐的ではない。過ちを認め、謝罪することは健全な精神であり、国家の品位を保ち、共に生きる和解が生まれる。

過去の歴史を、都合よく捻じ曲げて解釈することを、修正、改ざんと言っているが、現在の事実を捻じ曲げることを「フェイクニュース」「偽情報」と言っている。「フェイクニュース」という言葉は、米国のトランプ前大統領のころから、頻繁に聞くようになった。現在、ロシアはウクライナに残虐な侵略戦争を仕掛けている。この時、ロシアはウクライナを「ネオナチ」と言っている。ヒトラーの軍隊がソ連を攻撃した時、ウクライナの独立を目指す人々は協力的だったから、いまだに「ネオナチ」と言うらしい。しかし、現在のウクライナのゼレンスキー大統領はユダヤ系で、ネオナチであるはずがない。また、「原爆や生物化学兵器を作っている」と宣伝している。ウクライナにそれらを作っているとは思えない。事実とは違うニュースを流し、自らの暴力を正当化しようとするプロパガンダである。ロシアのラブロフ外務大臣が、「ウクライナを攻撃していない。ロシア国と国民の命が脅かされている」と言うのを聞いて、啞然とさせられる。過去ではなく、現在の事実さえ、身勝手に捻じ曲げて言う状況では、平和を作り出すことは不可能である。

事実を正確に認識することは容易なことではないが、真摯に追求し、ここから学ぶことが共生する世界を構築する道筋ではないか。修正、改ざん、フェイクは歴史を悲劇に導く。